

ライフステージにおける 発達障害者支援

保育園・幼稚園向け

Rabbit Developmental Research

平岩 幹男



1

発達障害とは？

- 発達障害

発達の過程で明らかになる行動やコミュニケーションなどの障害で、根本的な治療は現在ではないが、適切な対応により社会生活上の困難は軽減される障害

発達そのものの障害ではない

2

「困ったちゃん」の抱える問題

- 行動やコミュニケーションの問題を抱えるので
→注意されたり叱られたりしやすい
→めったにほめられない
→そして二次障害につながる・・・キレル
- Self-esteem (自己肯定感、自尊感情)の低下
→低下しては行動は改善しない
→Life skills training (LST)などの訓練が必要
- 薬物療法だけではなかなかうまくいかない

3

発達障害の種類

- 自閉症スペクトラム障害 (ASD)
Autism Spectrum Disorder
→知的障害を伴う(言葉の遅れがある)
→知的障害がない(言葉の遅れがない)
- ADHD(注意欠陥・多動性障害)
→Attention Deficit/ Hyperactivity Disorder
- 学習障害
周辺としてトゥレット障害や選択性緘黙など
- 乳児期には言葉の遅れるASDが大きな問題

4

「困ったちゃん」は育て方か

- 基本は脳の機能的障害であると考えられており育て方で起きるわけではない
- 冷蔵庫マザーは過去の話
- 環境により症状の出現には差がある
- 二次障害の出現にも差がある
- 育て方や対応により困難は増強も軽減もする
叱り続けるのか・・・褒めるのか

5

発達障害は治るか

- 発達障害の特性は消えないかもしれない
→しかし「薄める」ことはできるかもしれない
→それによって暮らしやすくすること
- 原因が明らかでなければ対応できない？
→症状に対する特異的治療は今後の課題
→療育やトレーニングは可能
- 最終的には成人期に自立を目指すこと
→自立している人たちも多い
→もし自立が無理でもbetterを目指す

6

自分のクラス全員
良いところが
3つ挙げられますか？

それができればOK
できなければ努力

7

名前をカードに書く

ゆま

けんと

さくら

- クラスの人数分のカード
- どれが出ても
→3秒で3つのいいところ
- 声に出すことがポイント
- 黙ってではできない
- みんなで競争しよう

8

カードの裏

すぐに手伝ってくれる
給食を残さない
めったに泣かない

9

3つのいいところ

- 3秒で、クラスのすべての子のいいところが3つ浮かぶか？
- 浮かぶならば、そのクラスはうまくいっている
- 気になる子ではこれが「すぐに出てこない」
- これは単純にトレーニング
→誰でもできるようになる
→できれば「扱いにくさ」は感じなくなる
- 保護者と共有すればモンスター化しなくなる

10

対応がうまくいけばクラスは変わる

- その子だけを特別扱いと他の児童が感じない
→スペシャルケアは必要だが一般化も必要
- 一日5分×3のケアでも子どもは変わる
→家庭との共通認識が必要
- ダメなことはダメ・・・このルールは必要
→それを理解させるためのSST、LST
- 一度に何とかしようとは思わない
→いつもスモールステップ

11

自閉症スペクトラム障害 (ASD)

Autism Spectrum Disorder

12

自閉症スペクトラム障害(1)

- 自閉症スペクトラム障害
社会性や対人関係の障害(コミュニケーションも)
こだわり(常同行動や感覚過敏・鈍麻を含む)
- 脳の機能的障害で「知的能力」にも「症状」にも
強弱などを含めて連続性(スペクトラム)がある
- 全体での頻度は1~2%とする報告が多い
- 男子が3~6倍多い

13

自閉症スペクトラム障害(2)

- Kannerの自閉症(ASDの25~35%)
→1943 Leo Kanner が最初に報告
→多くは言葉の遅れ、知的障害と見なされる
→しかし療育的対応によって変化が
- 高機能自閉症(ASDの65~75%)
→1944 Hans Asperger が最初に報告
→言葉の遅れはないかあっても軽度
→しばしば二次障害で発見される
- 現在わかっている遺伝子で説明できるのは数%以下、
今後は増加する可能性が高い

14

自閉症のブラックイメージに

医療も保健も教育も社会も
そして保護者も
染まっているかもしれない

15

言葉が遅れるASDと知的障害

- 自閉症は知的障害を伴うものと考えられた
→自閉症は言葉の遅れを伴う
→言葉の遅れは知的障害
→知的障害は治らないから自閉症は治らない
- 多くの人は改善する可能性を知らない
- しかし個別療育によって変化が出てきた
→発達が大きく改善する子どもたちがいる
→まだまだ大きく変わらない子どもたちもいる
- 事前にそれはなかなか判定できない

16

ASDが疑われると・・・

- 発達検査をしてみる:その数値が低ければ
→早期診断=早期絶望のはじまり
- 発達などの通所支援サービス:
→発達支援サービスは増加している
→個別に療育ができる場所は少ない
→自閉症に特化した公的施設はほとんどない
- 保育園や幼稚園では加配など
→必ずしも認められないし、加配への教育もない

17

ASDへのこれまでの多くの対応

- 診察をして病歴を聴取する
→しばしば子どもの観察は不十分
- 脳波、MRI、血液検査など
→器質的疾患を考えて検査する・・・多くは異常なし
- 器質的疾患が見つからなければ・・・
→診断しても対応がないと考えれば様子見も・・・
- どうすればよいか知りたい保護者には
→しばしばno idea

18

ASDにこう対応してみたら・・

- まずは診断をするより何が困難かを考える
→必要があれば検査もする
- 診断名ではなく実際の生活上の問題を把握
→将来的な目標も聴取する
→無発語＝知的障害とは限らない
- 実際の問題点に合わせて対応方法を伝える
→改善状況を見ながら課題設定を変える
→場合によっては他職種との連携を

19

幼児期に自閉症を疑う

- 声を自発的にほとんど出さない
- 視線が合わない、横目でものを見る
- 物体には興味を持つが他人には興味がない
- 棒をたたき続けるなどの反復行動がある
- 指差しをしない
- クレーン現象がある
- 自発言語がない
- 表情の変化が少ない
- 感覚過敏がある
- まねをしない(動作や音声など)

20

疑わしければ介入を

- まずは聴力の確認
- 子どもの行動を観察する
- 保護者の気持ちを確認する
→「つながり感」の有無
- 1歳でも介入はできる
→対人関係性をどうやって作るか
→反応を引き出すための取り組み
→そこから療育的な対応につながっていく

21

幼児期の高機能自閉症

- 言語発達の遅れは基本的にはない
→理解の遅れはなくても文章構成や適切な言語使用が苦手な場合もある
- 興味のあることに集中し知識を累積する
→そのために周りに尊敬されていることもある
- 感覚過敏はそれなりにあるが気づかれない？
→聴覚過敏、味覚過敏、触覚過敏、視覚過敏
- 困難さが表面に出ていない場合にどうするか？
→将来の困難が予測されるなら経過を追う

22

目標は成人期の自立

- 言語発達の遅れがあっても
→知的障害とは限らない
→目指すのは「第2の高機能自閉症」
- 知的レベルの判定はテストよりも
→日常会話の理解力、生活習慣の獲得
- 高機能自閉症の診断は幼児期には
→されないことが多いが
→対人関係の困難さやこだわりから見つかる
→対応方法は基本的に同じ

23

ADHD 少しだけ説明

注意欠陥(欠如)多動性障害

24

ADHD

- 一次性の症状
→不注意性、衝動性、多動性
- これらの症状により社会生活に困難がある
- 2つ以上の場面で6か月以上続いている
- 12歳以下に症状が明らかになる
- 自閉症との併存例もある
- 適切に対応しないと早期から二次症状が出やすい
- 児童虐待でも似た症状になりうる
- てんかん、熱性けいれん、母の喫煙は危険因子

25

幼児期のADHDは診断を慎重に

- 多動や不注意の症状は普通に見られる
→特に男児では
- 衝動性の症状は見分けが難しい
→何か欲しくなれば出て不思議ではない
- 診断するよりも困り事への介入を
→未就学児への薬物治療は勧められない
- その他の原因でも似た症状が出る
→児童虐待、保護者との別離、施設収容

26

ADHDにこう対応してみたら・・・

- 診断よりも実際の社会生活上の問題を把握
→家庭だけではなく園などの状況も
→それをどう改善するかをみんなで話し合う
- 技術的な対応としてSST、LSTを開始する
→社会生活上の困難が減らせばよい
- 重要なことはself-esteemの上昇
- 実際の問題点に合わせて対応方法を伝える
→子どもをほめて「うまくいく」機会を増やす

27

園でも家庭でもやってみよう

28

介入の基本

- 修行ではないので、楽しくできること
- 秒速でほめる
- 主導権を取り返すこと
- 毎日少しでもする(1回1分、1日3回から)
- だらだら義務感でやらない(笑顔が消える)
- 記録をつける
- 魔法ではないからそんなに急には変わらない
→あせらず、あわてず、あきらめず

29

目を見る:アイコンタクト



- 非言語的コミュニケーションの代表
- 最初は一瞬でも言葉をかけながら伸ばす
- 「目が合う」から「のぞきこむ」へ

30

文章で話しかける

- 「言葉を読まないからわからないだろう」ではなく、文章で話しかけよう
- まずはリズムのある言語をたくさん聞かせることが言葉につながる
- 語りかけ、読み聞かせ、一緒に見る



31

言語においても模倣は重要

- 模倣は多くは動作から始まり音声へと広がる
→動作をしながらの喃語は言葉の「卵」
- 単音の模倣から2~3文字の模倣へ
→意味のある単語の習得へ
- 言語においても最初は模倣、明瞭度も低い
→ジュース(ジュ)、ちょーだい(ダイ)
→か行、さ行の明瞭な発音は遅れる
- 模倣言語からコミュニケーション機能としての言語への転換が必要になる

32

要求語(MAND)



- ちょうだい、あけて、とって、かして
- 要求語は自発語の基本
- ちゃんとさえなくても言い直しはNG
- 正しい表現で返す
- 関連する文もアリ

33

手あそびうた



- 簡単なのは「糸巻き」や「ひげじいさん」
- 動作と音声の模倣
- まずは動作模倣を狙う
- 反応したらそこを繰り返してみる
- はっきりでなくても声が出たら喜ぶ
- 進化形が「絵描きうた」
→幼児期

34

動作を指示する



- 手をパチパチしよう
- ばんざいしてみよう
- 言葉をかけながら子どもの手を取って
- 語りかけながら
- いずれは手助けなしでできるように！

出来たら満面の笑みで

35


ハイで手を上げる



- 最初は名前を呼んで手を挙げる
- …できる子 手を挙げて
- …する子 手を挙げて
- ハイと言いながら手を挙げる
- そこでまずほめる
- それから指示を出す
- できたらほめる
- 注目させてから指示を出す

36

タッチ



- 「タッチ」の声掛けでタッチができれば…まずは最初のゴール
- できるようになったら何度も連続しないで少し間をあけてしてみる
- できなければもう一方の手を添えて誘導しても
- 必ず「タッチ」の音を出す

ここまで来れば一段落

37

ハイタッチ



- 目の高さを合わせる
- 目より高い位置でタッチ
- パチンと音を出す
→出すのは子ども
- ほめるにも使える
→ごほうびにも


38

手上げからタッチ



39

指差し



要求→指示→共感

40

見立て



- 非言語的コミュニケーションの代表
- できなければやって見せる
- ひとりおままごと
- みんなでおままごと
- 進化形が鬼ごっこ

41

療育的対応のいろいろ 最近では「介入」

障害のある子供のために行う医療と
保育・養育(広辞苑第6版)

42

行動はABC分析から

- 前提(先行)条件 (antecedent)
→嫌いな食べ物が出た
- 行動 (behavior)
→癩癩を起こしてスプーンを投げた
- 結果 (consequence)
→食事ができなかった
- 嫌いなものを出さなければ偏食が進む
- 少しずつ慣らすことが基本、トークンも

43

ABC分析

- 目が合わない→手を叩いたら目があった
→ごほうびに声かけとタッチ
- ばんざいをしてみせた→まねをした
→思い切りほめてみる
- 絵本の読み聞かせをする→聞いているみたい
→ほめる(当たり前だと思わない)
- ボタンが留められないのでサポート→留める
→ほめる(手伝ってもできたらほめる)
- まわりがうるさい→騒ぐ→叱られる

44

問題行動を消す、減らす

- 無視する
- タイムアウト→クールダウンが目的
→感情をこめない
- 切り替える→とりあえずこれがお勧め
- ほめて消す、減らす→それなりに時間はかかる
- アイマークを貼る



45

反復性(常同)行動

- 自閉症ではよくみられるが、することがないときに多い
- 逆模倣、切替
- 切り替えたなら別の行動を指示
- 叱ったり注意したりして止めるのはNG



46

問題行動を止めたら・・

すぐに次の指示を出す

止まって安心すると復活する

47

こだわりへの対応

- 制止することは多くの場合が無効
→制止によって強くなることもある
- 常同行動は呼びかけて行動を変える
→すぐに次の指示を出してその行動に移す
- 道順、手順などはあらかじめ説明する
→視覚的な方法も含めて事前に理解させ変更
- その時、将来、社会生活の支障になるか？
→なるものには少しずつ対応する

48

イヤイヤ対策

- 子どものイヤイヤに感情的にならない
→ そうなると悪循環の始まり
- あらぬ方を向いて聞こえるようにつぶやく
→ ●●してくれたら、うれしいな！
→ 聞いていないようでも聞いていることが多い
→ 感情をこめずに「淡々と」話すこと
- まったく別の指示を出すという方法もある
→ 大切なことは子どもに主導権を渡さない

49

注意惹き対策

- 物を投げる、つばを吐く、寝転んでごろごろ
→ 基本的には無視するが、多くはすることがないときに起きる
- 注意して止めようとすることは
→ 注意を惹いたので結果として強化になる
- 事務的に「しません」「・します」と切り替える
→ すぐほかの行動を指示して切り替えることも
- 自傷、他害がある場合にはタイムアウトも

50

一緒に楽しく食べる



- 偏食・小食対策の基本は楽しく食べること
- 一緒に食べること、食べたらほめること
- 食感を変える方法もある
- サンドイッチ法もある

51

感覚過敏をめぐって

- 聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚
→ 過敏も鈍麻も見られる
- 過敏が社会生活上の困難になるなら
→ 少しずつ急がずに慣らそう(馴化)
- 過敏が自分の世界への入口ならば
→ 切り替えることを考えよう
- 過敏は「こだわり」の一部なので
→ 慣れる、切り替えるが基本

52

睡眠障害

- 入眠障害、中途覚醒、早期覚醒がある
- 起床時にすっきり起きられるかどうかが鍵
- 自閉症でもしばしば起きる
- 以下は睡眠障害の誘因になる
→ 身体活動性の低下
→ 不適切な昼寝
→ 満腹での入眠
→ 強い不安感、予期不安、睡眠への恐怖

53

ほめるということ

喜びを共有すること

叱るということ

同じことが次に起きないようにすること

54

3秒待つ

注意するとき

1秒以内に

ほめるとき

55

1秒以内(秒速)

- 反応すべき時点から1秒以内に対応
→ほめるときにはすぐに反応
→思い切り感情を込めて
→ほめる以外では感情的にならないこと
- 動作的な補助を使うことも
→ハイタッチなど動作的補助も役立つ
→ありがとうも褒め言葉

56

秒速でほめる



- 1秒以内にほめる
- できたらほめようと思って待たない!
- ほめ言葉は練習しないと1秒で出ない

57

ほめ言葉

- やったね
- すごいね
- さいこー
- カッコいー
- すばらしー

58

ほめ言葉:レパートリーを増やす

- やったね、すごいね、さいこー、カッコいー、かわいい
- いいねー、ぐっど(ぐー)、すばらしー、
- すてき、みごと、ひらめいたね、ぜっこーちよー
- うれしいねー、あんしんだねー、
- 少なくとも5つは出るようにしよう
- タッチ(ハイタッチ)
- ありがとう

59

指示を理解して、できることを増やす



- にこにこサイクルを1日に50回回そう
- 簡単なことでいい、できてほめることを目標に
- 急がないでsmall stepで一歩ずつ

60

トークンエコノミー

- TOKEN(ごほうび)を毎回渡さず、何回かの積み重ねで渡す(節約するのでECONOMY)
- 最初は3回でPINO
- 次は10回でエビフライ
- 次は20回で動物園
- シール等で目で見えるようにする(可視化)
- 利子も付けない、減らしもしない

61

言葉かけとハイタッチ

- たとえTOKENが用意されていたとしても
→声かけとハイタッチは欠かせない
- いつまでもTOKENに頼るわけではなく
→声かけとハイタッチに反応するようにしよう
- しかし急いではいけない
→TOKENを急に減らすと「やる気」が下がる
- いつも明るく、楽しそうに

62

ありがとう



- 「ありがとう」もほめ言葉
- 「ありがとう」と言われて嫌な気はしない
- だったらお手伝いを増やそう
- 「ありがとう」には下心なし

63

お手伝い



- お手伝いは1日50回が目標
- 文章で指示する
- ハイタッチと「ありがとう」を忘れない
- 先取りお手伝いを見逃さない

64

ほめられて喜ぶ
笑顔を

保護者と一緒に
確認する

65

3秒待つて叱る



- 瞬間湯沸かし器にならない
- 3秒で冷静になれる
- 叱るより説明させること

66

3秒

- 頭の中で1, 2, 3 それから話す
→かなり練習が必要
→感情のたかぶりを抑える
- 冷静に話す
→子どもに説明させる、説明できたらほめる
- 叱るより事務的にすべきことを指示する
→それができれば叱ることは不要かも知れない
- その行動を止めることではなく
→次にその行動が起きなくなることが目標

67

3秒ルール



- 怒りのエネルギーを子どもにそのままぶつけない
- 3秒待つだけでかなり冷静になれる
→怒りがおさまる
- これには練習が必要
- 安全に関わるときは別

68

あいさつ



- おはようございます
- こんにちは
- さようなら
- いただきます
- ごちそうさま
- ありがとう
- ごめんなさい

就学までには身につけたい

69

YESとNO

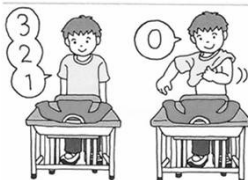


- YESとNOが言えるようになること
- 世の中ではNOが言えることの方が大切



70

カウントダウン



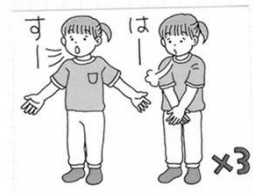
- 声を出して練習
- 3, 2, 1, 0
- 子どもの様子を見ながら
- 10からでもよい
- 個人でも集団でも
→応用できる

71

クールダウン



×5



×3

72

困ったときにどうする？

困っています
わかりません
お願いします
助けてください
どうしたらいいでしょうか

困ったときの必要な言葉

73

集団に入る前に共有する

- トイレ、食事、着替えの自立
- 集団での指示の理解と実行
- 意志表示ができるかどうか、自発語のレベル
- 食事、睡眠、排泄等の問題点
- アレルギー、けいれんなどの有無

74

集団に入るために

コンコンちゃん
ごはんの時間だよ
ハハ
告げない?
告げる?

75

「困ったちゃん」は「かわいい」

- 行動やコミュニケーションの原則を理解する
→行動を見て考える
- できないことは
→練習して出来るようにしよう
- いらいらしたり叱っても
→行動はそんなに変わらない
- 叱って行動を変えるよりも
→ほめて行動を変えよう

76

GOAL: 最終目標

- 自分に自信の持てる子 (self-esteem) の高い子どもに育てる
- 社会で生きていけるように育てる
→社会生活習慣を身につける
→自分で稼げるようにしよう: 自立を目指そう
- すべての対応や療育はこのためにある
- すべての子に対しても同じことだが
→発達障害を抱えていると考える必要がある

77

対応が職業なら
その子は大勢の中の
one of them

保護者にとっては
only one

78